

酒々井町郷土研究会々報

第33号

昭和59年7月5日
酒々井町郷土研究会
発行部 総務部

石佛のこころ(四)



民間信仰で もっとも古い

歴史を持つのは庚申信仰であるといわれております。

庚申とは 十干十二支の六十日ごとに回ってくる庚申(金鼠)です。

庚申信仰は、平安時代に中国から貴族社会に伝わり、時代が下がるに従って庶民の間にも広がり、江戸時代中期以降になると、石像が盛んに造立されるようになりました。

石像の形式はいろいろありますが、当町の庚申塔は、舟形

光背に半彫りの青面金剛(しうめんこんごう)と三猿を刻んだものであります。庚申信仰は、中国の道教が伝えたもので、人間の身体の中には、三巴(さんし)の虫が住んでいて、庚申の夜、人間が寝しずると、そと脱けだして天に上り、天帝に人間の罪悪を告げると、人の寿命が短くなるので、それをゆえに、その夜は、庚申を祀り善事をしない、眠らずに飲食をして三巴の虫のきげんをとって、昇天を防ぐのである、という大衆結構な信仰であったために、農村の娯楽と習合して盛んになったようであり、昭和初期ごろまではどの部落にも庚申講があつて、その夜は、當家の家に集まり、夜中まで掛軸を

かけ、灯明をあげて、夜更けまで飲食歓談をしておりました。庚申信仰も今では昔がたりとなつて、文化財扱いされるようになってしまつてしまつた。

庚申信仰は、印旛、東葛地方は殊に盛んであります。百庚申と言つて百基の庚申塔がある寺の入口や、路傍に祀られているが、各所に見られます。当町の庚申塔は、上本伏倉、中川以外、右に十七基散在してあります。

1. 伊藤の庚申塔 字石堂の塚上
高3.7m 遺立 享保十三戊申 九月廿日

2. 伊藤新田の庚申塔
今倉新田との境 三叉路
高2.1m 遺立 享保十三申庚 二月廿日

3. 善男善女十二人
施主 伊藤村新田

4. 下左橋の庚申塔 字田中
高2.9m 遺立 正徳五巳未 八月廿日

5. 大鷲の庚申塔 大鷲神社境内
高2.1m 遺立 享保元年申 十月廿日

6. 新坂の庚申塔 字兼島山
高2.5m 遺立 正徳二年壬辰 二月廿日

7. 下り松の庚申塔 酒々井町字六町
高2.5m 遺立 下榊
酒々井町鶴岡遺酒石衛門

8. 酒々井町の庚申塔 東光寺境内 元下
り松にあつたが、国道5号線工事により鶴岡町文化財に指定されたことにより

9. 根在谷の庚申塔 字向根五谷
高2.6m 遺立 正徳元年申 十月十五日

10. 櫻井岡の庚申塔 別所川橋院
高2.8m 遺立 吉田口大天 櫻井岡七

11. 嶺田長聖の庚申塔 若林寺境内 塚山長門内
大谷吉元門 跡文吉元内 和日勤安衛

12. 新橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

13. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

14. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

15. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

16. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

17. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

18. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

19. 高橋の庚申塔 字不惣内 外三五名

高3.5m 遺立 享保丁三米
十一月八日
舟造青面金剛一鉢 本佐村

請合 施主十七人敬白

10. 猿楽場の庚申塔

本佐倉 猿楽場

高3.8m 遺立 享保五庚申年
十月二十五日

奉造青面金剛一鉢講合檀家等

衆主修 本佐倉村中津坊講中敬白

用服師吉祥寺

11. 本佐倉の庚申塔

享南大坂 愛宕神社裏庭前

この庚申塔は元享南神主の塚上に

あり本佐倉が国道列号線表に現在

地に移された。正統的な遺像であ

ること遺主者及趣意明確であること

により町文化財に指定されたといふ

高3.1m 遺立 享保十二巳年
九月二十六日

本佐倉町拾八人講中二世堂澤

12. 為橋の庚申塔

看取神社境内

この庚申塔は元享隆徳の遺像

脇にあったものを現在地に移し

たといふ

高3.8m 遺立 享保元丙午年

十一月廿辰

13. 墨の庚申塔

古沢春藤家邸内

この庚申塔は元は河辺の畑中にお

りましての現在地邸内に相転同

家1代神扱いといふ

高3.5m 遺立 元文五庚申年
十一月廿日

14. 大川戸の庚申塔

墨守大坂

高3.1m 遺立 寛政元巳酉
四月廿日

15. 尾上の庚申塔

宇台畑観音堂 境内

この庚申塔も元は宇台畑通積中

石河近の三叉路にありまして道路

拡張工事によりここに移された

高3.6m 遺立 寛政三戌年
十一月廿日

青面金剛像の両脇にたわま

たすくろとあり道標役もつけられ

16. 飯積の庚申塔

一字塔之内墓地脇

高3.8m 遺立 享保十七壬子天

奉造 庚申明王 願主敬白

17. 飯積の庚申塔

宇城上三叉路

高3.8m 遺立 享保五歳丙申
八月二十二日

左高松道 右上勝田道

願主 庄兵衛

以上十七塔のうち、遺立年号の列しているのは

十六塔であり、これによりすると、正徳

四、享保八、元文一、享永一、寛政三と

なり、この時代が庚申信仰が盛んであ

たことがわかります。

八代將軍吉宗の享保の改革による庶

民生活の安定して来た。信仰にも余裕がで

てきたために、遺立と考えられる



平和の美化運動

金杉智恵

明春開かれる筑波万博を

訪れる外国人に「平和の花」とし

て花だいの種の贈ろうと

いう運動があります。花だいの

種は、菜の花の咲くころに薄

紫の美しい花を咲かせますが、

この花は、十八年前朝日新聞

の「声」欄に主婦が投書し

たことがきっかけとなり、全国

的に栽培されるようになった花

です。その投書は次のようによ

うでした。「文は戦時中、南京

の紫金山のふもとで薄紫に咲

き乱れる花の美しい子に打たれ

後にこの花の種を送る。戴き

栽培しました。これが花だいの

です。文は二十数年来、知人や

近隣の方に種を分けして来

ました。さらに多くの方に種を

まいていただき、日本中でこの可

憐な花を見ることができたと

文は病床で願うといふ。以下略

この投書の主婦は茨城県石

岡市の山口文子さん。文は戦時

中衛生材料廠長、薬学博士、

陸軍薬剤少将で中国に居られ

た山口誠太郎さんという方です。

この投書の反響は大ましく種

を希望する手紙が全国から一通

も届いたそうです。私もその時に

種と十二粒送りました。毎年美

しい花を咲かせてあります。
また種を御希望の方に分けて
まいりました。三年前(五五五)

の郷土研究会報二二号にもこのこと
を紹介し、三三号では「花だんごんご
町を美しく」と題して、数人の方から
種をいただいた。委員の方に種を分
けてまいりました。

最近はこの花を作せようの方が
多くなり町内の各所で見られるよ
うになりました。今回は本家であ
る石岡市の山口さんなど、平和の
花だんごんをなめる会「運動」恩が
文しつかりで協力して計画を
成功させたく存じます。

今年この種と採取して郷土研究
会へお寄贈下さるようお願ひ
します。郷土研究会までとめて
本部へお送りします。御協
力を願ひします。



C 班見学会に参加して

上回悦子

雨空のもと 欠員も無
く 三十七名をのせてバス
は 快調に出発しました。
和気藹々 引率者会田
さんの笑顔の見学地の説
明に楽しみが倍加され 雨
も又楽しと五十一号線まで
走りまわりました。加曾利に到
着の頃は、雨も小雨になり
木々の緑は濡れて一緑と濃
さを増して、傘もささずに
見学してまわることができま
した。貝塚はさすがその規
模は世界的に屈指のもの
と言われるだけに圧巻で
した。複元された野外の
堅穴住居も昔を思ふすが
となり、古代の人姿に
思いを馳せました。代官

屋敷も珍しく戸が開けられ
(雨のため)「いろいろには新
が、あかあかと燃えて保存
会のボランティアの方の思わ
ぬ歓迎を受けました。
座敷にあらがり会田さんの
説明で柱の面とりや敷居を
見せていただき、又一つの知識を
得ることになりました。

二番目の見学地千葉城は
純日本風四層五階の天守閣
造りの郷土館で市の歴史的
史料が沢山展示されており
見学の時間がもう少し欲し
いと思ひました。五階では
声よく、ウエルトに富んだ映画
の弁士ならぬ案内係の方の
城下四方の説明を聞きました
たが、その名調子に思わず拍手
をしてみました。

千葉寺は、雨降りやせいか
本堂は扉がしまったままで

折角の信仰心もかつかり、会
田さんの仁王門や釣鐘の説
明に又も知識を得ることがお
まました。バスの中で昼食

の鳥弁当をふいふくいただいた
後 千葉港より「しらとり丸」
に乗船して湾内一周しまし
たが近代的大型工場や貯
蔵タンク 倉庫などが建
ち並び 規模の大きさに
驚きました。又海岸に

日本一のマンモス遊園地の
出現するの近々の予定
とか、どのような憩心や場
なるのでしようか楽しみます。
美術館を見学して食
堂でしばらくの休憩、はげ
しく降り雨の中 帰路に
つきました。雨模様な
から 楽しい一日を過し
感謝してまいります。

郷土研行事案内

昭和59年7月三、四半期

会計報告

	7月	8月	9月
古文書学習会	14日(土) 午後1時30分 中央公民館	休	1日(土) 午後1時30分 中央公民館
石佛調査	15日(日) 午前9時 中央公民館集合	5日(日) 午前9時 中央公民館集合	2日(日) 午前9時 中央公民館集合
野草の会 名勝探訪	29日(日) 午前8時20分 京成酒々井駅集合 泉岳寺~増上寺~水天宮 亀戸天神 雨天中止	休	16日(日) 午後1時 京成酒々井駅集合 佐倉城跡公園周辺の見学 雨天中止
史談会	休	18日(土) 午後1時30分 酒々井町の民俗 中央公民館	15日(土) 午後1時30分 酒々井町の民俗 中央公民館
文化財 愛護運動	7月21日(土) 午後1時現地集合 雨天中止 代替8月5日(土) 上岩橋目層と横穴古墳 草刈り清掃作業		
果外 見学会	9月18日(火) 吉川英治記念館- 武洲御蔵神社- 高幡不動尊 光ドライブイン前 } 7時30分集合 クリーニング店前 } 申込受付 7月16日(月)9時より 中央公民館前 }		

4月24日 山茶王会へ3名

会費	600x6/1	30,500-
材料		34,921-
差引不足		4,421-

郷土研補助

6月5日~15日 千葉方面見学会(4回)

会費	1500x130^	195,000
入場料	加賀利寺和館	6,770
	千葉城	6,770
	千葉港	64,190
弁当		74,520
バス代		32,000
支出計		184,270
差引残		10,710

郷土研へ

新会員紹介

426	熊野洋子
427	市川英子
428	針谷朋子
429	圓部善一
430	伊坂次工
431	阿部みどり

郷土研研究会日誌

4月	1日 郷土研会報32号発行	
	7日 古文書学習会	出席12名
	8日 石佛調査	参加6名
	14日 文化財愛護(墨江古墳)	" 12名
	19日 山茶王会へ準備会	" 8名
	24日 山茶王会へ3名	" 61名
5月	3日 野草の会(市川真岡)	" 61名
	6日 石佛調査	" 6名
6月	2日 古文書学習会	" 4名
	3日 石佛調査	" 4名
5月~15日	千葉方面見学会4回	" 130名
	10日 町内史跡めぐり(キヤ)	" 40名
	17日 野草の会(堀切方面)	" 43名
	20日 役員会	出席20名

見学会案内

吉川英治記念館 青梅市にあり、文豪
吉川英治が、吉野村名主邸をゆず
りうけて住み、ここで名作新平家
物語などと執筆した。現在は、遺
品、資料などが公開されている。
御蔵神社 標高九九米の御蔵山
にあり、木曾「御蔵神社」に對し、
武洲御蔵神社として知られている。
ケ、ブルを利用して登山参拝する。
高幡不動 成田不動と共に、関東
三不動の一つとなつてゐる。正式
には、全剛寺という古い寺院で
仁王門、不動堂は園の重要文化財
となつてゐる。

編集室だよ

郷土研会報も長い間、かり版刷
りで頑張つて来ました。が、今回か
らオフセット印刷にいたしました。

た、会員数も多くなり、かり版刷
りの限界となつたのを機会に改め
てみました。これでぐつと読み易
くなつたことでしょうか。
会報の筆耕は、上田悦子と木村
幸子が担当してゐます。
四月二十四日の山茶王会へは、
大雪の為、例年の「たらのぎ」山笠
は採取出来ず、献立作りは苦勞し
ました。結果は好評で六一名の参
加者がありました。
今回の見学会は、青梅市の吉川英
治記念館、御蔵神社、高幡不動方
面を、千葉交通の観光バスを利用
して、実施することにいたしました。
多くの参加を期待してゐます。
金杉さん提唱の「年知の花運動」
は郷土研会報の事業として推進し
たく思ひます。御協力を祈願
いたします。